第２６回石川建築賞　受賞作品

☆知　事　賞　野々市町役場新庁舎

設計者:香山壽夫建築研究所

施工者：鹿島・真柄・治山社・和泉特定建設工事共同企業体

それぞれ三層になった行政棟、議会棟、情報交流館棟で囲まれたウッドデッキ貼の開放的な中庭広場と各棟の伸びやかな客溜まり吹抜空間とを大きなガラス面で一体化し、その空間を更に背面の近隣公園と連繋させて、常時町民に開かれている行政空間という全く新しい自治体庁舎を創り出した。赤、青、緑、黄等の加賀五彩にちなむ色彩を室内要所に用い、外部も紅殻色塗りの能登ヒバのルーバーや外壁、茶色のサンドストーン貼りなど、色彩やテクスチュアの豊かさが特質である加賀美術工芸の伝統を生かしている。またこの敷地に固有の気象条件に応答したデザインがなされている。

◎優　秀　賞　金沢 21 世紀美術館

設計者：妹島和世+西沢立衛/SANNA

施工者：竹中・ハザマ・豊蔵・岡・本陣・日本海特定建設工事共同企業体

東、西、北の三面からアプローチされる立地に応えた円形という無正面性の平面の裡に、様々な大きさの主として矩形の展示室と光庭とをグリッド・アラインメントに基づいて配し、採光のデザインと共に、美術館に従来常識的であった展示の為のシークェンシャルな空間とは全く異なった、それ自体が２１世紀美術の作品であって、展示作品と協同しコラボレートしているような独創的な空間を創り出している。全面曲面ガラスの外壁は館の空間を近隣空間と一体化させ開かせて、人々が親しみ易いものとなっている。精緻で美しい幾何学的立体構成を創造している。

◎優　秀　賞　本多町の歯科診療所＋住宅

設計者：岡本義富建築研究所　　施工者：（株）松本工務店

交通の頻繁な前面道路、左右及び背面が駐車場及び隣接建築に密接した狭隘な敷地という悪条件に対して、前面及び右側面に最小限の開口を持つＲＣ造壁を立ち上げて前面道路からの騒音を遮断し、プライヴァシーを確保した閉鎖的で親密な空間を創っている。背面、左側面に住宅部へのアプローチとなる領域を設定し、これを室内、室外を繋ぐ中間領域として、これに向けて室内空間を開き閉鎖性を軽減している。悪条件を逆手にとった良質の解決が評価された。

入　選　石川県立大学

設計者：（株）松田平田設計　　施工者：（株）治山社

プロムナードと名付けられている前面広場が、ゲートとなるピロティで持ち上げられた図書館部分を潜ってそのまま総ての施設が面する中庭プラザへ昇って連なるアプローチが伸びやかである。このプラザと教室棟との間にパティオを設けるなど、大学コミュニティ構成員の交流、交歓を支える空間造形が行われている。閉ざされた中庭プラザを構成する壁面の色彩とテクスチュア、タイルの貼りパターンなどが地域性を表現して親密な空間を創っている。

入　選　いろは蔵

設計者：(有)小林吉則建築計画室　施工者：坂下建設(株)

既存の蔵を輪島市の観光情報案内所・休憩所として保存再生を行った作品で、既存の二階建ての蔵の空間を、新しい機能に対応した一部増築を含む文脈において再編し、既存の伝統意匠、雰囲気を保存しつつそれを新しい空間の文脈に組み込むことに成功している。外構も庭園的な小公園とし、季節の移ろいに応じた変化を考慮した植生がなされ、全体が近隣都市空間と景観に寄与するものとなっている。また、このプロジェクトが地域住民との協働によって展開されてきたことも評価された。

入　選　体験交流施設　ラブロ恋路

設計者：(株)浦建築研究所　　施工者：真柄・谷口特定建設工事共同企業体

大浴場、宿泊施設、研修施設、レストランから成る複合施設であるが、これらをそれぞれ独立させて配置し、研修施設を除いた総ての施設からそれぞれ独立した海景が楽しめるよう配置してある。海に面したバルコニーを持つ宿泊室各室が雁行して配置されているのは、隣室からの視線にさらされない独立した視界を保つことが出来るという同様の配置に基づく。海景を最優先することによって生まれた各施設のランダムな配置によって生じた相互の中間領域を、動線空間として用いて巧みにこのランダムさを捌いている。

入　選　乗光寺門徒会館

設計者：高木信治建築研究所　施工者：富士技建

庫裏の座敷即ち集会空間の保存再生と住職の生活空間の増築であるが、この様に寺院の庫裏は公的性格と私的性格を併せ持つ。この作品は庫裏の玄関に大きな吹抜けのあるホールを置いて公的性格を表現すると同時に、それによって私的空間を公的空間から分節している。増築部分には旧造作、部材を再使用して歴史性を保存した他、拭漆、珪藻壁などの仕上げを用いて奥能登の地域性を表現している。集会空間の保存再生部と増築部の取合の困難な施工に成功している。

入　選　古町の家

設計者：松島健建築設計事務所　　施工者：(株)角永商店

南西、東南を道路に囲まれた角地の狭隘な敷地を、直截で明快な平面計画によって巧みに用いている。挟雑物を可能な限り排した幾何学的抽象的なシンプルで清潔な造形の美しい空間を生み出している。居間からの視線を考慮した塀の高さやテラスと軒の出の寸法、開口部の寸法、玄関から居間の見え掛りなど、総じて視覚的効果に対する周到な検討がされている。遊びのないデティールの破綻のない施工に成功している。

入　選　　石引の家

設計者：谷重義行+建築像景研究室　　施工者：(有)けやき住建+ライフデザイン

小立野の西面した斜面に立つ住宅であるが、西側擁壁を敷地境界から五米引っ込めて設置することで、半地下の一階へ吹き抜けた多目的室とパティオを設けることによって、二階へ吹抜けを持つ一階の居間と庭、二階の子供室と屋上デッキへと立体的に、地階、一階、二階へ変化して連なって行く室空間と庭空間の室内、室外双方の魅力的なシークェンスを創り出している。アプローチからカー・ポート、庭を見通して遙かに寺町台を望む借景の扱いも成功している。

入　選　　内灘町の家

設計者：吉島衛建築研究室　　施工者：北国建設(株)

介護の必要な祖母、母、息子夫婦のための三世代住宅であるが、世代別の生活空間を相互間に適切な距離を持った半独立的な空間として巧みに連携させたプランニングが優れている。敷地面と道路との間の１．２米の高低差を利用して居間を２．１５米高のピロティに載せ、その下を潜って斜路で玄関へ導く介護に配慮したアプローチも評価される。このことが居間を一階床から７２センチ上がるスキップフロアにしていて、一階、居間、その吹抜けから二階へ連なる空間のシークェンスの快い変化を産み出している。